

低温日照不足に対応した水稻の管理対策

平成22年4月22日
巻農業普及指導センター

4月に入ってからの気温は寒暖の差が大きく、また、日照時間も少ないことからハウス内の温度が上がらず、苗の生育が遅れています。

また、水田内の土が乾かず耕起が遅れています。田植えは急がず、苗の仕上がりや田んぼの状態に合わせ管理してください。

育苗期後半から田植えまでの管理について

- (1) 低温年はハウス内の湿度が高くなりやすく、カビの発生が起こりやすいので注意する。
- (2) 今後急激な温度変化も予想される。緑化期に急激な高温に遭遇すると白化苗や苗焼けが発生しやすいため、ハウス内の温度の変化に十分留意する。
- (3) 無加温育苗では出芽までの時間がかかり、硬化の期間が短くなりやすい。田植え時の植え傷みをできるだけ防ぐため、早めにハウスを開放し硬化の徹底を行う。
- (4) 発根促進のため田植え前4～5日前のべんとう肥を行う。
- (5) 根張りの良くない苗は、大苗になりやすいので、田植え時には掻き取り量に注意する。
- (6) 苗の出来が良くないことが予想されるので、できるだけ天候の良い日を選んで田植えを行う。

田植え後管理について

- (1) 植え傷みを防ぎ、活着を促進するため、田植え後は保温的水管理を行なう。
- (2) 低温時の除草剤の散布は、薬害を起こしやすいため、できるだけ天候の良い日に散布する。

湛水直は栽培について

- (1) 丁寧な耕起、代掻きにより播種精度の低下を防止する。
- (2) 播種適温は早限で平均気温12℃を超える頃、適温は15℃以上とされており、早めに播きすぎないように注意する。